
十九歳

八チ公線

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十九歳

【Nコード】

N1607E

【作者名】

八千公線

【あらすじ】

朝から寮の大家さんにごみの分別で叱られた。でも俺はちゃんとしたはずだったのに…それは俺のゴミ袋ではないのに…叱られた。今日は本当に厄日かもしれない。

昨日は電車の中でハイヒールに踏まれ爪の中で血がたまってしまった、さらに野球ボールが頭に直撃という厄日だ。

「…はー」

深くため息をついた。それは本当に呆れているという意味で別に人生に飽きたという意味ではない。

俺は携帯を取り出し、彼女にメールをした。

そして数分後にはメールが返って来る。

【なんでメールしてくるの？】

と言う内容だ。昨日喧嘩でもしたのだろうか？　もしかすると俺は末期かもしれない。

なんとなくとメールを送って俺は携帯をしまった。

こんな辛い日々を送るのはきつと君の所為だろうか？　と少し思った。君がこの俺の厄日の監督とか…脚本でも書いているのかもしれない。

俺はため息をついて、寝転がる。

日曜だから別に何もやることなどない。少しボーとしていたら玄関のインターホンがなった。

ドアチェーンを外さずに戸を開けるとそこには彼女がいた。

「用があるんだけど」

それは冷たい声だった。俺はいったん閉めてドアチェーンを外す。そして開けてみると彼女の手にはケーキの箱があった。

「誕生日おめでとう。せっかくだから一緒に食べない？」

…本当に俺の厄日は彼女が書いたものかもしれない。

こんな辛い日々に甘い時間を作るなんて……彼女は俺が主演の話

を作っているみたいだった。

気付けば俺は彼女を抱きしめていた。彼女が持っているケーキ箱が落ちてしまっても俺は離さなかった。

苦しいよ。と彼女が言う。

それでも俺は彼女を離さなかった。

俺はその日に彼女に荷物まとめてこっちに来いよといったのだ。

それからいつからか経った日。

彼女と夜のデートを計画していた日だ。俺はバイトに言っていてあるとき電話がかかってきたのだった。

「今日の八時に 駅のロータリーにいるよ」

と俺の返事も聞かずに切った。

俺はバイトをやり終えた後、時計を見た。もう八時十分。完全に遅刻だ。

また俺はこう思った。本当に厄日だ。

彼女関係のものはすべてそう思ってしまった。本当に彼女から来るものは厄日としか思えない。でもとにかく俺は走った。そしてそのロータリーに着くと彼女はいなかった。

しかし…遅いよ!。と後ろから声がした。

俺は後ろを見ると、彼女は缶コーヒを二つ持っていた。多分息を切らしてくるのだろうと思っていたのだろうか。先に飲み物を買ってきていた。

俺は笑った。本当に彼女が作っているようなものだ。

その日俺は彼女に苗字と一緒にしちゃうないかと言った。

しかし……そんな甘い日々も彼女無しでは作れない。

数日後に彼女は交通事故で死んだ。
あっさり逝ってしまったのだ。

俺は彼女の姿を見た。最後だから目に焼き尽くそうと思ったのだが……彼女の顔はなかった。肉片だった。

彼女はもうどこにもいない。俺は家に帰り、部屋に閉じこもった。すると玄関のインターホンが鳴った。

「はい」

俺がドアチェーンを外さずに玄関を開けた。

「あのー、今日からここに引越すことになったんですけど」

俺はまだ彼女は生きているのかなと思った。こんな厄日な日々の中に甘い時間を作る人なんか彼女ぐらいだ。

その引越してきたものは俺の好みだったのだ。

これだとまるで俺は浮気したみたいだった。本気で。

でも……いいのかも知れない。彼女は彼女なりに最後の甘い時間を作ったのだから。それはそれで味わっておこうと思う。

それは俺が二十になる前日の十九歳最後の甘い時間だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1607e/>

十九歳

2010年10月11日02時04分発行